

〔書言字考節用集八〕八辭ウラム望ユム選文 恨同約會 恨同 憾同 懣同 讒同 怨同 悌同 忤同

〔倭訓栞前編四〕うらみ 恨をよめり、怨望をよむは義訓也、裏見の義也、前を見ずして、後を見るは、

忿恨の意あり、○中 うらめしともいふ、めし反み也、靈異記に悌をうらめしみとよめり、

〔拾芥抄下本諸教誠〕源信僧都四十一箇條起請

應重禁制條々略○中

一、不論親疎不可恨人略○中

已上四十一箇條、可如眼精矣、

〔武門鑑草〕楠正成、何となく君を恨み奉る心の出来なば、天照大神の御名を唱べしと、常に士卒に示し玉ふも、日神と上様とは、御一體なるゆへなり、

〔日本書紀神代一書〕曰略○中 至於火神軻遇突智之生也、其母伊弉册尊見焦而化去、于時伊弉諾尊恨之曰、唯以一兒替我愛之妹者乎、

〔日本書紀敏達二十〕十四年八月己亥、天皇病彌留、崩于大殿、是時起殯宮於廣瀨、馬子宿禰大臣佩刀而誅、物部弓削守屋大連听然而笑曰、如中獵箭之雀鳥焉、次弓削守屋大連、手脚搖震而誅搖震戰慄也、馬子宿禰大臣笑曰、可懸鈴矣、由是二臣微生怨恨、

〔日本靈異記中〕持己高德、刑賤形沙彌、以現得惡死緣第一、

親王屋○長 見之、以牙冊以罰沙彌之頭、頭破流血、沙彌摩頭捫血、悌哭而忽不覩、所去不知略○中

悌ウラミ

〔古今著聞集四文學〕橘正通が身のまづめる事を恨て、異國へ思ひたちける境節、具平親王家の作文序者たりけるに、是を限りとやおもひけん、

齡亞顔馴過三代而猶沈、恨同泊戀歌五噫而欲去とぞかけりける、源爲憲其座に作けるが、此句